目　　次

序　編　はじめに …… 1
推薦文（その 1）出版にあたって　北海道地域農業研究所長　坂下 明彦 …… 3
推薦文（その 2）「北海道農業の歴史的変遷に関する総合研究」を称えて …… 4
帝京大学経済学部教授　玉　真之介
目　次 …… 7
報徳に関する資料 …… 12

第１編　明治・大正期から昭和中期までの開拓と農業関連の動向 …… 15
Ⅰ　北海道全体に通じる事項 …… 15
1　北海道開拓の始まり …… 15
2　入植・開拓の類型別の概要 …… 17
1）屯田兵制度による屯田兵村の設置と開拓 …… 17
2）華族・士族農場による入植と開拓 …… 17
(1) 華族由来の農場　(2) 士族由来の入植と開拓
3）本州の資本家による農場の設置と開拓 …… 18
4）移住会社設立による移住者の募集と入植・開拓 …… 18
(1) 北越殖民社（新潟）の例　(2) 山陰移住会社の例
5）キリスト教団による移住者の入植・開拓 …… 19
6）二宮尊親の村づくり（豊頃町二宮開拓の祖） …… 19
7）北海道の漁家や資本家による組合・会社などよる入植・開拓 …… 20
(1) 漁家による同盟社　(2) 寿都町の資本家が「後志興農株式会社」を設立
8）北海道の入植地に出身地などの名を付けたところ …… 20
(1)「新十津川村」　(2)「北広島市」
Ⅱ　後志管内南西部（現在のＪＡようてい区域）の開拓 …… 21
1　町村の生い立ちと名称 …… 21
2　本格的開拓のための植民地選定 …… 21
3　地域別の入植者の特色 …… 21
1）秀峰羊蹄山(1898m)山麓 …… 22
2）河川流域と気象条件 …… 22
3）尻別川下流域の入植者の特徴 …… 22
4）朱太川流域の開拓と入植者 …… 22
(1) 旧斗南藩による開拓（帰農）(2)「歌棄同盟社」による開拓 (3) 朱太川流域の特色 (4)「後志興農株式会社」の設立と開拓 (5)「西尾農場」の開設
Ⅲ　地主と小作人との関係 …… 27
1　はじめに …… 27
3　全国的な小作争議の始まり …… 27
3　新潟県の小作争議「地主王国」といわれるゆえん …… 28
1）新潟県木崎村小作争議 …… 28
(1) 小作争議をめぐる小作側の人物研究 (2) 小作争議をめぐる地主側の人物研究
(3) 思想的座標軸からみた木崎争議 (4) 小作争議の評価
4　北海道における地主と小作の関係・小作争議の実態 …… 31
1）地主と小作の関係 …… 31
2）小作争議の実態 …… 31

第２編　農産物の商的流通方法の変遷 …… 34
1　明治年代における農家の販売形態－「仕込取引」の展開 …… 34
1）農産物流通担当者とその地位 …… 34
(1) 産地仕込商 (2) 産地問屋 (3) 移出問屋 (4) 移出仲立人 (5)（補）輸出商
2　「仕込取引」の衰退と商人の分化・専門化の進展 …… 38

１）「仕込取引」の衰退－大正末期における農家の販売形態 ……38
２）産地商人の分化 ……39
（1）産地仲買人　（2）産地問屋
３）集散地市場の形成と集散地商人 ……40
４）移輸出と（小樽）商人の分化・専門化の進展とその地位の変化 ……40
（1）委託問屋（2）移出問屋（3）精撰業者（4）輸出商（5）仲立人
３　銀行の生い立ち ……42
１）明治年代から大正初期の銀行 ……42
２）国策銀行の設置 ……42
３）北海道拓殖銀行設立の背景 ……43
４　青果物の取引の実態 ……44
５　小樽取引所の開設 ……45
１）小樽取引所の概況 ……45
（1）組織（2）資本金（3）会員（4）会員身元保証金（5）賠償責任（6）市場
（7）上場品目（8）売買期限および単位（9）その他の条項
２）小樽取引所の役割 ……46
６　農業問題の深化と流通機構の変貌 ……46
１）統制経済直前における流通機構の外観 ……46
（1）米　（2）大豆　（3）小豆および移出向け菜豆　（4）青豌豆および輸出向け菜豆
（5）小麦(6）燕麦　（7）除虫菊　（8）薄荷　（9）澱粉
２）農業恐慌と農業問題の深化 ……47
（1）農業恐慌と農家経済の破綻（2）市場競争の激化（米・大豆・小豆・菜豆・
青豌豆・馬鈴薯澱粉・薄荷・除虫菊・小麦）
７　共同販売の発達 ……50

**第３編 農産物の物的流通方法の変遷** ―舟運・海運・道路（馬車・自動車）・鉄道― ……51
１　舟運・海運・道路・鉄道による物流 ……51
１）北海道と本州との交易 ……51
２）舟運と海運の実態 ……51
３）開拓初期のころの道路と陸運の状況 ……54
４）北海道の馬産史と農業発展の軌跡 ……55
（1）江戸期の馬産（2）幕府の有珠・虻田牧場の開設（3）明治・大正期の馬産
（4）　軍馬育成時代（5）　北海道のおける馬産の推移(飼育頭数から)（6）文化的側面
と馬産（7)「馬頭観音」の碑と像（8）畑作の中心的作物の「燕麦」との関わり
５）海運輸送から鉄道貨物輸送への変遷 ……58
６）鉄道の開通と貨物輸送 ……59
参考：北海道の鉄道路線地図の変遷（開業・廃止、ＪＲ見直し検討路線）……64
参考：主なフェリー・貨物船の就航内訳、激変する農産物の輸送（著書紹介）……65

**第４編　「農業倉庫」の変遷** ……66
１　農業倉庫の必要性と設置の推移 ……66
２　農業倉庫事業の概要 ……66
１）一般農業倉庫 ……67
２）聯合農業倉庫 ……67
３）農業倉庫事業と地主 ……67
４）農業倉庫事業従事者（人材）の育成 ……68
３　北海道農村現場での農業倉庫の事例 ……68
１）株式会社による農業倉庫の事例 ……68
（1）倶知安倉庫　（2）美瑛倉庫　（3）岩見沢倉庫
２）農業倉庫の補助金を受けなかった事例など ……69
（1）岩見沢の岩見沢産業組合の倉庫（2）後志管内樽岸村中ノ川産業組合農業倉庫
（3）農協史（産業組合史）に見る農業倉庫建設の喜び

4　農業倉庫建築構造（躯体資材）の変遷 …… 70

**第５編　「農産物検査制度」の変遷** …… 71
1　単位同業組合時代 …… 71
1）片栗同業組合による検査 …… 71
2）帯広農産商組合による検査 …… 71
3）石狩国上川郡東旭川村における検査 …… 71
2　聯合同業組合聯合会時代 …… 71
1）北海道雑穀商同業組合聯合会による検査 …… 71
2）郡農会における米穀検査 …… 72
3　道営検査の概要 …… 73
1）対象品目 …… 73
2）検査の種類 …… 73
3）検査事項 …… 73
4）検査等級 …… 73
5）標準品および検査標準品査定 …… 74
6）容量 …… 74
4　道営検査のその後の沿革 …… 74
5　農産物検査の人材教育 …… 74
6　「移出馬鈴薯を検査せよ」との提言 …… 75
7　馬鈴しょの移輸出検査の経緯 …… 76
1）北海道馬鈴薯協会の設立と活動 …… 77
(1) 規格の内訳 (2) 検査員の委嘱 (3) 検査証票の交付 (4) 検査協議会 (5) 成果
2）馬鈴薯の道営検査（農産物検査および種子馬鈴薯圃場検査）の開始 …… 78
3）移輸出馬鈴薯の包装容器 …… 79

**第６編　「土地改良法制度」の変遷**－土地改良法と北海道土地改良事業団体連合会の設立－ …… 80
1　土地改良法制定に至るまでの経緯 …… 80
2　土地改良法の特色 －「土地所有者主義」から「耕作者主義」へ－ …… 81
3　土地改良区の設立について …… 81
1）設立の経過 …… 81
2）土地改良区の役割 …… 81
4　北海道における土地改良の歩み …… 82
5　北海道土地改良事業団体連合会（略称：土地連）の設立と活動 …… 83
1）設立の経過 …… 83
2）組織の会員と役割など …… 84
3）「農業土木技術員養成講習所」の設置 …… 84

**第７編　「農業共済」の変遷**　－家畜保険と農業保険（農業共済）、「農業災害補償法」の制定まで－
1　はじめに …… 85
2　「家畜保険法」と「家畜保険組合」 …… 85
1）家畜保険類似事業 …… 85
2）北海道における「家畜保険法」と「家畜保険組合」 …… 86
3　「農業保険法」と「農業保険組合」と「農会」の役割 …… 87
1）背景と経過 …… 87
2）「農業保険法」の制定と施行 …… 87
3）北海道における「農業保険組合」の設置 …… 88
4）北海道農業保険組合連合会の設立 …… 88
4　農業会時代における農業保険の動向と「農業災害補償法 」 …… 88
5　農業共済組合の設立 …… 89
6　農業共済組合連合会の設立 …… 89

7　その後の運用状況 ……90
8　農業災害補償法から「農業保険法」に改正 ……90

第８編 公益財団法人「北農会」の設置と活動 ……91
1　「北農会」設立の経緯と現状 ……91
2　「北海道農事試験場北農会」設置当時の時代背景 ……91
3　北農会の組織と運営体制 ……92
4　北農会の事業 ……92
5　北農会の主な活動 ……92
1）表彰事業 ……92
2）記念事業 ……92
3）農業技術コンサルティングセンターの活動 ……93
4）有機農産物検査・認証センターの活動 ……93
5）「北海道農業フロンティア研究会」事務局業務 ……94
6　「こぼれ話」あれこれ ……95

第９編 馬鈴薯栽培および関連諸要素の変遷 ……97
1　作付面積と 10a 当たり収量 ……97
2　畑作の馬鈴薯作付け率の推移 ……98
3　澱粉生産の産地移動 ……98
4　馬鈴薯澱粉価格の推移 ……99
5　気象条件、土壌・肥料 ……100
6　病害虫発生と防除 ……101
7　品種の導入と用途 ……103
8　試験研究機関と種いも供給 ……104
1）北海道農事試験場の設置 ……104
2）八雲馬鈴薯研究所の設置 ……105
9　馬鈴薯生産発展の一典型（留寿都村の事例） ……105
1）自給食用馬鈴薯生産－入植期 ……106
2）澱粉原料馬鈴薯生産－商品生産期 ……106
3）馬鈴薯生産の再編成 ……108
4）戦後馬鈴薯生産の躍進 ……109
5）《参考》その後の状況 ……109
10　組織的採種体系の整備 ……110
1）農会における種苗事業 ……110
2）「種子馬鈴薯圃場審査規定」設定 ……110
3）農林省「馬鈴薯原原種農場」の設置 ……110
4）北海道馬鈴薯採種組合連合会の設立 ……110
5）各地区生産農業協同組合連合会と北海道生産農業協同組合連合会の活動 ……112
6）「植物防疫法」に基づく種馬鈴薯の検査制度 ……112
11　北海道における原種圃体制の確立 ……113
1）北海道立農業試験場原原種農場を設置の設置 ……113
2）北海道立馬鈴薯原種農場の設置 ……113
(1) 道立根室馬鈴薯原種農場 (2) 道立斜里馬鈴薯原種農場
3）(公財) 日本特産農産物種苗協会　(公財) 日本特産農産物種苗協会 ……114
(1) (公財)日本特産農産物種苗協会網走農場 (2) (公財)日本特産農産物種苗協会十勝農場
12　馬鈴薯関連の記念碑 ……114
1）記念碑建立の写真と背景など ……114
(1) 七飯町「男爵薯発祥の地」 (2) 函館市「男爵薯を讃ふ」 (3 厚沢部町「メークイン発祥の地」 (4) 「留寿都村発祥 紅丸薯顕彰之碑」 (5) 士幌町「拓魂 士幌農協農村工業発祥の地 」
2）「男爵薯」、「紅丸」、「蝦夷錦」について ……116
(1)「男爵薯を讃ふ」の碑 (2)「留寿都村発祥 紅丸薯顕彰之碑」(3)「蝦夷錦」の

誕生と普及の記録
13　後志菅内における試験懸研究機関の設置 …… 118
1）北海道庁立倶知安農事試作場 …… 118
2）北海道大学付属余市果樹園 …… 118
3）北海道農業試験場喜茂別傾斜地試験地 …… 118
4）北海道立農業試験場岩宇園芸試験地 …… 119
14　第二次世界大戦（終戦）後の馬鈴薯の状況 …… 119

**第 10 編　「農会」の設置と機能・活動** …… 123
1　農会の設立と活動 …… 123
2　農会における販売斡旋事業 …… 126
3　農会の活動が産地形成に果たした役割（事例） …… 128
1）狩太村（現ニセコ町）の事例 …… 128
2）八雲町における主産地形成と農会の活動 …… 131
3）七飯村における農会の活動 …… 133

**第 11 編　「産業組合」の設置と機能・活動** …… 134
1　はじめに …… 134
2　協同組合などの変遷 …… 134
3　北海道における「産業組合」の発達と機能・活動 …… 136
1）前史としての報徳社の発展・報徳仕法の展開など …… 136
2）北海道における二宮尊徳由来の史実 …… 136
(1) 道南の開拓と札幌の開拓に尽くした「大友亀太郎翁」(2) 興復社事業と北海道の開拓 (3) 報徳訓・二宮尊徳の報徳精神が札幌農学校、北海道大学卒業生に与えた影響・残したもの (4) 海外人の「二宮尊徳ファン」からみた評価
4　村落共同体の成立と報徳思想 …… 139
5　産業組合法の制定と先駆的組合 …… 139
1）北海道における設置の推移 …… 140
2）産業組合聯合会の設置 …… 141
3）ＪＡようてい管内における、明治・大正期の時代の産業組合の姿 …… 141
(1) 中ノ川産業組合の生い立ち（a）冨田家における農業経営と主な事項（活動・公職）の変遷記録（b）小林篤一翁との絆（2）狩太村（現ニセコ町）産業組合の設立と活動
6　産業組合による共同販売の発展（農業恐慌期以後） …… 148
7　産業組合発展の基盤（産業組合拡充 5 ヵ年計画の推進と結果 …… 149
8　「反産運動（反産業組合運動）」と「反・反産運動」の展開 …… 151

**第 12 編　「北海道信用購買販売組合聯合会」（略称：北聯＝ホクレンの前身）の設立と活動** …… 153
1　聯合会の設立の背景 …… 153
2　保証責任北海道信用購買販売組合聯合会の設立と活動 …… 153
1）設立の経緯 …… 153
2）設立当初の産業組合 …… 154
3）代表者と事務所の設置および営業の開始 …… 154
4）組織と事業の拡大 …… 155
5）販売事業の本格的散り組み …… 155
6）北聯の 1933～1937（昭和 8～12）年までの農産物の出回り、取扱量・占有率の状況 …… 156
3　農産物統制確立の経緯 …… 158
1）農産物統制年表 …… 158
2）法律・制度・規則とそれに伴う機関（国策会社）と「北聯」とのに関係 …… 160
(1) 日本輸出農産物株式会社 (2) 日本大豆統制株式会社 (3) 日本澱粉株式会社
(4) 日本甘藷馬鈴薯株式会社

**第 13 編　「北海道農業会」の発足・活動と解散**－北海道農業会・郡（地区）農業会・市町村農業会－ …… 162

1　戦中発足の農業会と終戦直後の活動 …… 162
1）背景と経過 …… 162
2）農業生産力と産業組合イデオロギーの崩壊 …… 163
3）産業組合後期・戦時体制における農業の状況 …… 164
2　北海道における農業会の発足と活動 …… 165
1）発足の経過 …… 165
2）組織的体制 …… 165
3）農業会の事業実績 …… 166
4）農業会の解散実務 …… 166
3　北海道における特異な例 …… 167
1）「無限責任光珠内峰延購買販売組合」（現在の峰延農協） …… 167
2）樽岸村農業会と中ノ川産業組合との関係 …… 167
4　産業組合や聯合会後期の活動 …… 168
5　酪農組織の変化と牛乳・乳製品の統制 …… 169
6　家畜人工授精の発達の推移 …… 169
7　北海道農業会末期における新農協への移行の行動 …… 171
1）具体的に史実が確認された事項 …… 171
2）事業別の中で想定した事項 …… 171
(1) 指導事業および組織指導事業 (2) 信用事業 (3) 購買事業 (4) 販売事業
(5) 医療厚生事業 (6) 工場と投資会社
8　各種団体組織の機能・活動の調整機関の存在 …… 172
1）北海道農業復興会議 …… 172
2）農業委員会発足の経緯 …… 172
9　北海道農業会時代における農産物の取り扱い実績 …… 172

**第 14 編　太平洋戦争終戦後の「農業改革」** …… 173
1　農地改革法案（第一次・第二次）とその実施 …… 173
2　農業改良助長法による農業改良普及制度の導入 …… 174
3　農業協同組合法による農業協同組合（農協）の誕生 …… 175
4　農業委員会と農業会議の変遷 …… 176
1）都道府県農業委員会の発足と廃止 …… 176
2）北海道農業会議の発足と組織変更 …… 176
3）北海道農業会議の活動－意見公表・建議・諮問答申を中心に …… 178
5　戦後の緊急開拓と開拓営農指導員の設置と活動 …… 179

**第 15 編　農業協同組合（農協）・連合会の活動** …… 180
**Ⅰ　「農業協同組合法」の制定の背景と経過** …… 180
**Ⅱ　農業協同組合法と農業協同組合（農協）の誕生** …… 181
1　期待と不安への農林省の対応 …… 181
2　農業協同組合の発足 …… 182
1）新農協発足直後の経営不振 …… 182
2）農協、連合会の再建整備 …… 183
3　北海道における農協の誕生 …… 184
1）合農協（一般組合）の変遷 …… 184
2）特殊農協（専門農協）の状況 …… 184
4　北海道の農協の経営不振 …… 185
1）後志管内農協の設立の状況 …… 185
2）農業協同組合設立当初の時代背景・農協経営（不振の原因と対策） …… 186
(1) 創設期　(2) 経営不振期　(3) 冷害凶作期　(4) 経営整備期
3）設立後 10 ヵ年の経営状況 …… 188
(1) 損益発生の状況　(2) 農家負債の実態
**Ⅲ　北海道における連合会の発足** …… 191

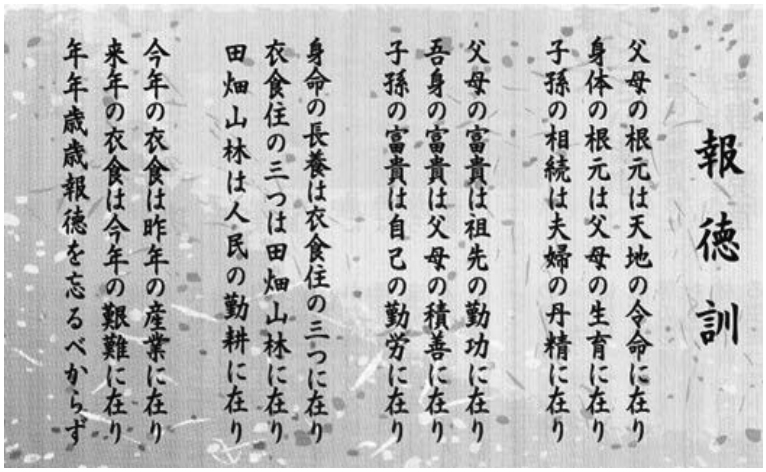
1　道段階の連合会の設立 ……191
2　連合会設立の特異的存在 ……191
1）指導連の設立 ……191
2）北海道生産連の設立 ……192
3）北海道共済連の設立 ……192
4）北海道開拓連の設立 ……193
3　地区段階の連合会および専門の連合会 ……193
1）地区生産連 ……193
2）地区生産連設立の事例－後志農業協同組合連合会→後志生産農業協同組合連合会へ－ ……194
(1) 後志生産連の場合 (2) 後志馬匹組合の解散と資産の譲受 (3) 北海道馬鈴薯採種組合連合会の資産譲受 (4) 後志生産連の本格的出発と体制 (5) 後志生産連の業務実績 (6) 後志生産連の農政活動
3）専門連の設立 ……198
4　北海道販売農業協同組合連合会（北販連）の経営不振 ……199
1）耕種部門 ……199
2）畜産部門 ……202
5　連合会の合併、名称変更など（主として 1954（昭和 29）年以降 ……203
6　戦後の農業協同組合活動の補足 ……203
1）協同組合講習所の開設 ……203
2）農協青年部と「北海道農協青年部協議会」の設置と活動 ……204
3）農協婦人部と「北海道農協婦人部協議会」の設置と活動 ……204
4）北海道農協拡充計画の樹立と推進 ……205
5）北海道農協の体質改善 ……205
6）生産・経済一体化と北生連、地区連事業の顛末 ……206
(1) ホクレン事業への移管 (2) 中央会事業への移管 (3) (財)家畜改良事業団（後のジェネティクス北海道）への事業移管 (4) (公財)北海道農業開発公社（後の北海道農社）への事業移管

**第 16 編 終戦後の特徴的活動と農業振興施策の概要** ……208
1　北海道報徳の歴史 ……208
1）札幌農漁業機関報徳社における話題提供から ……208
(1) 戦後の「壹圓」札に二宮尊徳の肖像画が選ばれた (2)「リンカーン青年と二宮金次郎の肖像画」による訓話 (3) 二宮尊徳像の復活と新設
2）財団法人北海道報徳社の設立と活動 （札幌農漁業機関報徳社の活動を含む） ……209
2　北海道開発局の設置と活動 ……211
3　農畜産物価格安定政策の変遷 ……212
1）農産物価格安定法と馬鈴薯澱粉などの価格安定政策 ……214
2）甜菜振興と価格安定政策 ……216
3）畜産関係の施策と価格安定政策 ……217
(1) 酪農の振興施策背景と特質 (2) 酪農振興法と集約酪農地域の設定 (3) 全道生乳共販の推進とその限界 (4) 生乳の全道共販の始まり (5) 指定生産者団体･ホクレンの発足 (6) スタート した指定団体・ホクレンの体制
4　北海道協同乳業（株）の設立から「よつ葉乳業（株)」への変遷 ……220
1）北海道協同乳業の設立 ……220
2）市乳工場の建設と市乳への進出 ……222
5　生乳の道外移出の取り組み ……223
6　農業基本法の制定 ……224
1）全国的動向 ……224
2）北海道における取り組み ……225

**終　編** ……226
1　年　表 ……226

２　余　話（その 1～その 4）……229
３　執筆者（冨田　義昭）の経歴書、主要な活動実績一覧 ……242
４　同上のエッセイ、提言、レポートなど ……246
①月曜随想「『7・5 運動』－営農活動原点に立ち－」②「私の終戦記念日」③特別寄稿「農業情報の受・発信は農業外に対しても」④「『農の側から消費者へ！』－これからの 10 年－」⑤提言「『思いつくままに』－試験研究および技術普及の取り組みの課題－」⑥「最近の活動と技術普及現場での課題」⑦エッセイ「猪突猛進」⑧「調査・研究マンいろいろ」⑨「『ヘテロな組織』に思う」⑩『農業技術者ＯＢに対する研究助成に感謝』⑪「ソ連・極東地域における畑作・野菜栽培技術の動向」
５　終わりに……276

〈参考資料その１〉**「報徳訓」**について




出典:「北海道報徳情報」第 432 号 2024（令和 6）年 1 月 1 日、北海道報徳社発行による。
なお、報徳訓は北海道内の農協や漁協に掲載されている。

**報徳訓の説明**：報徳実行の入り口であり、扉です。今日流には、次のように語っています。
一連では、自分の存在を明らかにせよといっています。
二連では、自分をとりまく文化を説いています。
三連では、勤労による生命の存続を説いています。
四連では、道徳と経済を一歩前進させる心得です。
　最後にこれらを忘れず、報徳の至誠、勤労、分度，推譲の確実な実行を、人生観として忘れるなと言っています。

〈参考資料その２〉**「二宮尊徳翁の像」**について

この像は、豊頃町二宮地区在住の武野温恭氏が北海道報徳社に寄付したもので、報徳の教えである相互扶助と協同精神を普及啓発し後世に伝えるため、ＪＡグループ関係者が集う北農ビル１階ロビーに置かれた。

2020（令和元）年 11 月 18 日に行われた「二宮尊徳翁」銅像設置除幕式に撮影されたものである。

写真提供：一般財団法人北海道報徳社